



志教育実践報告

令和4年3月発行

宮城県古川黎明高等学校 〒989-6175 宮城県大崎市古川諏訪一丁目4番26号
TEL 0229-22-3148 FAX 0229-22-1024 <https://freimei-h.myswan.ed.jp>

生徒会キャッチフレーズ 僕らで描け！新たな1ページ！ ～未来の黎明設計図～

昨年、古川高等女学校創立から数えて100周年を迎え、今年度のキャッチフレーズは2年B組の大友菜結さんが提案した「僕らで描け！新たな1ページ！～未来の黎明設計図～」に決定しました。このキャッチフレーズにした理由は「100周年を迎え、新しい歴史へのとびらが開きました。私たちの手でその歴史を受け継ぎ、そしてまた新しい101ページ目を作ろうと思ったからです。」ということでした。

このすばらしいキャッチフレーズのもと、未来の黎明の土台となるように諸活動に励んでほしいと思います。



高校1年 SS探究Ⅰ 「大崎耕土フィールドワーク」

10月5日、爽やかな秋空のもと1学年SS探究Ⅰの学習の一環で「蕪栗沼干拓」「品井沼干拓」「鳴子ダム・内川」の3つのコースに分かれてフィールドワークを行いました。治水や利水といった水管理をテーマに、世界農業遺産大崎耕土に関する興味関心を高めるとともに、自然科学・農学・工学的な視点で課題を設定し、資料を活用しながら探究する態度を育成することをねらいとして実施したものです。現場に行かないと得られない情報を持ち帰ろうと、どの生徒も意欲的に参加していました。

〈蕪栗沼干拓コース〉見学地
萱刈潜穴／八寸筒／蕪栗沼／田尻総合支所

〈品井沼干拓コース〉見学地
鎌田記念ホール／鶴田川越水堤／元禄潜穴／明治潜穴



〈鳴子ダムコース〉見学地
鳴子ダム／内川



第1回おおさき小中学生自由研究 チャレンジ交流会

10月31日(日)、パレットおおさきにおいて、第1回おおさき小中学生自由研究チャレンジ交流会を実施しました。

当日は大崎市教育委員会の熊野教育長、審査委員長の宮城教育大学 池山名誉教授、SSH運営指導委員長の東北大学 村松教授など多くの来賓を迎え、参加児童20名の発表や表彰が行われました。

はじめに本校高校2年生アドバンスコースの生徒が課題研究発表を行いました。続いて、参加した小学生の発表が行われました。指示棒を使ってはじめはやや緊張した面持ちで、しかし堂々と発表しました。発表後は高校生やティーチングアシスタントの大学生からの質問にも答え、高校や大学の先生からも助言や激励の言葉をもらいました。一人合計3回の発表のあとは、どの参加者も目の輝きが増していたようでした。

最優秀賞は野蒜海岸で骨を拾ったことがきっかけとなった「海辺の骨の研究」でした。ホエルランドの学芸員さんに尋ねデータベースを調べ、丹念に結論を導いた素晴らしい研究でした。参加者の皆さんの「なぜ？」を形にしようという前向きな姿に、本校の生徒達も大いに刺激を受けていた様子でした。

おおさき小中学生自由研究チャレンジの作品を9月1日～14日で募集したところ、小学生20名から応募がありました。応募してくださいました。どの作品も、疑問や関心がストレートに研究に向けられており、研究内容や調査・実験の手法、図や絵の丁寧さは目を見張るものばかりでした。校内でも研究ポスターの写しを掲示して、本校生徒が自由に見られるようにしました。



公開授業研究会(SSH×ICT)実施 「探究力を育てる授業づくり～ICT教育の推進を通して」



11月10日(水)、本校を会場に令和3年度公開授業研究会【SSH研究開発報告会兼ICT活用(MIYAGI Style)授業公開】が開催されました。

当日は中高の国語・数学・英語・家庭・地歴公民・理科・理科課外・SS探究の教科においてタブレット端末やパソコンを使った授業

公開が行われ、県内外の小・中・高等学校及び東北大学や宮城教育大学の先生方など70名を超える先生方をお迎えして公開授業が行われました。

その後、全体会では「授業改善と新規観点別評価～1人1台環境を見据えて～」と題して、近畿大学附属高等学校教諭の乾武司先生による講演会が行われ、ICT機材を活かした授業の取り組み方や探究授業への生徒の取り組ませ方、新学習指導要領に対応するカリキュラムの作成方法についてご講演いただきました。